

なぜ「美浜 3号機運転再開」を急ぐのか

美浜町 松下 照幸

美浜 3号機事故からもうすぐ2年になります。11人の死傷者(5人が死亡)を出した惨事でしたが「事故再発防止策」は有効なのでしょうか。再発防止策が提案されてからも、様々なトラブルが起きています。発電所で働く人たちの声には、私が耳にする限りでは、再発防止策の効果を疑うものもあります。

美浜 3号機運転再開に当たって私が最も注目するのは、警察の捜査結果です。それは、美浜 3号機事故の真相究明が未だなされていないと考えているからです。11人もの死傷者を出した事故であり、破断時刻がもう少しずれていたら100名を超える可能性のある事故でもありました。事故の真相を究明した上で「事故再発防止策」を検討すべきであります。

事故直後の地元新聞で、日本アームが破断配管部の点検漏れを発見して「関電の担当者に相談した」旨の報道がなされました。議会においてそのことを質すと「事実とは違い、告訴も考えている」と美浜発電所次長が全面否定しました。しかしその後、告訴はなされていません。警察の捜査結果はこの点を明らかにしてくれることになるでしょう。

もし日本アームが関電担当者に相談していたことが真相であったとしたら、関電はそれを全面否定しているのですから、「事故再発防止策」が問われることとなります。このことは、事故の起因に関係するとても重要な問題

です。関電の主張がひっくり返ることになれば、「事故再発防止策」は効果も信頼性もなくなることは疑う余地がありません。ですから、警察の捜査結果を待って「事故再発防止策」を確認すべきであると私は主張しています。

警察の捜査結果を無視するかのよう、運転再開は「事故後2年」を想定して進められているようです。そのような姿勢では、決して社会の信頼を得ることができないでしょう。「事故再発防止策」が提案されてからも、様々なトラブルが発生しています。三菱重工による配管刻印問題と関電の品質管理意識欠如、安全管理区域内での火災等です。発電所運転員の強盗未遂事件もマスコミをにぎわせました。そして、美浜町議会が運転再開を容認した当日には3号機で放射性物質を含む水漏れが発生しました。不信感を募らせた美浜町議会は3号機のトラブルについて説明を受けることを決めたのですが、またもやその当日に、美浜2号機で2次系配管の水漏れ、大飯原発2号機で作業員の放射線被曝が発表されました。

「事故再発防止策」が運転再開に向けたパフォーマンスであることを、私たちにまざまざと見せつけています。「事故再発防止策」とは裏腹に、発電所現場は3号機事故以前の様相であります。なぜ運転再開を急ぐのでしょうか。私にはとても信じられません。

編集後記

・ チェルノブイリ事故20年が経っても、チェルノブイリ原発事故の被災地では今なお人々は深刻な健康被害に見まわれていることが明らかとなりました。被災地のベラルーシから二人(医師と教師)を関西に招いて生の声を聞くことができました。久しぶりにご無沙汰していた方々ともお会いでき、交友を暖めることができ、不遜な話(事故は深刻なのに)ですが、本当に楽しいひとときでした。

きよ子